

磐城時報

編輯 石城郡平町 印刷 石城郡平町 電話 二四一
發行所 石城郡平町 電話 二四一
印刷所 石城郡平町 電話 二四一
電話 二四一
電話 二四一

河合回春園長の 自費患者優遇案

近頃では施料患者のみ多い 成り行きを期待さる

豊間村縣立回春園は縣下唯一の院料一日二圓五十錢より數等之肺結核療養所として大正八年開院を以て職員俸給給與等は設以來多數薄俸の患者を收容す所謂自給自足の觀ある現在の療養につとめた結果一時殆ん針を改めずして縣費として支辨方々をその筋に迫るべく目下各方面からの調査の歩館に開き等井上茂作、野崎滿人々も少なからず現今に於てはを進めてゐると云ふが、右に關聯、萩原義雄、吉田五平、柴田殆んど開設以來これが救濟療養に献身的の努力を續けてゐる園長河合重之醫學士の外に女醫一名、藥局事務及十名の看護婦等により濟世會患者八名、赤十字社同上十名、縣施療三名、自費者十一名、合計三十三名の患者を收容してゐるが由來同園の經營維持は一日二圓五十錢の自費患者を常に二十五名程度に於て收容し始めて收支の均衡を得る事になつてを處へ實際の自費患者は常にその半數に満たぬ場合が多いに反し平常八名限度で施療患者が豫定數に倍する状態なので其の間當局者の經理に關する苦心一方ならぬものである河合園長はこの間緩和調節を圖らため自費患者の一方として同社今回の整理は會社維持上誠食費、藥價等の實際經費一日一圓十六錢を根柢として現在の入觀測されてゐる。現在の職員は

爭議や變災に祟られ 磐炭で六十名解雇

三十日夫々内諭を發す

爭議や變災のため近來兎角不運六百名で約一割の減員である、會社の現況から退職手当等は比較的少ない様に見られて居る。

霧笛信號機 來月落成式

豊間村ではさきに同村漁業組合及縣水産會の補助金三千餘圓を得同地盛屋崎燈臺内、霧笛信號機を築きし一般船舶の航行の便を得居るがその竣成式は種々の事情から今日迄舉行せず遷延して居つた處此處愈々來る六月十五日を期し縣當局及地方有志多數を招待し盛大なる竣成式を

鯛の豊漁

小名大敷網

江名、小名濱兩町共願にかゝる江名沖の大敷網は去る二十八日網落しを二十九日初網あげをしたのに鯛千五百貫の漁獲あり三十日には鯛及鯖約千三百貫の漁獲を見手早々非常なる好成績であるため關係者並に地方民は大喜びの態である。

平陽出の古川さん 平町に訪問飛行

見事三等飛行士に合格 關係者は歓迎の準備

平町胡摩澤古川さん(二二)さん前十時から四倉署内に開き規約は去る大正十四年四月平町私立平陽女學校を卒業後翌年二十歳の春に千葉縣津田沼町東亞飛行學校練習生として入所したが、二十九日航空局試験官別府少佐以下審査員が立合ひ試験を行つた結果古川さんは、一千米飛行制限着陸、八字形飛行等を見事にやつたので遂に三等飛行士の免狀を授與さるゝ事になつた。

甘藷植付視察

佐本技師

農林事務試驗場長佐本技師は廿一日來平し野村技師と共に大浦村字細谷なる甘藷統病試驗地に至り甘藷根付けの視察を行つた。

巡回診療

新井博士の一行

磐城共濟病院の第十回巡回診療は六月一日午前九時から午後四時迄磐崎村大字藤原字馬喰坂北郷真吾方へ出張して診療、從事する等であるが、出張醫員は新井博士外四名である。

蓮の葉にすわつて 釋尊氣取りの溺死

小川村常敬寺住職の方 變つた死に方

三十一日午前七時頃小川村附近夏井川の流に僧侶の死体が浮いてゐるのを通行人が發見届け出たので平署から橋矢田部長出張検査した處、同人は小川村大字上小川常敬寺住職藤原周慶(四〇)言ひ河岸に置いてあつた書置きによりこの世を悲觀し、至つたので本部主事加藤勤十氏は慘敗宣言後磐崎村藤原、好間、小田の各支部に毎日の如く研究会を開催し入山の慘敗に鑑み組合の統制を完全に行ひ會員の結束、教育運動をなしたが廿九日午後六時から好間元劇場に於て古河炭礦、小田炭礦兩支部員をのつゝの關係、加藤氏が入山爭議の經過、今後の對策等について演説をなしたが、來月五日頃まで各支部に於て隨時演説會、協議會、研究会等を開催する由である。

日本坑夫組合 演説會開催

日本坑夫組合では入山炭礦に於ける爭議が、三十日日の戦ひ遂に破れ未曾有の慘敗宣言を行ふに至つたので本部主事加藤勤十氏は慘敗宣言後磐崎村藤原、好間、小田の各支部に毎日の如く研究会を開催し入山の慘敗に鑑み組合の統制を完全に行ひ會員の結束、教育運動をなしたが廿九日午後六時から好間元劇場に於て古河炭礦、小田炭礦兩支部員をのつゝの關係、加藤氏が入山爭議の經過、今後の對策等について演説をなしたが、來月五日頃まで各支部に於て隨時演説會、協議會、研究会等を開催する由である。

鯉漁場探査

一十九日出發

本縣水産試驗船磐城丸は定期検査の爲め東京石川造船所にて船体の修理中完成したので小名濱村大字宮城炭礦坑夫安達郡杉に歸港し出漁準備中であつたが廿九日午後七時三十分小名濱村大字宮城炭礦坑夫安達郡杉に歸港し出漁準備中であつたが廿九日午後九時四十分頃同坑上層千葉縣銚子沖合に至るまでの海業中落盤の下敷となり即死し同洋調査船鯉漁場探査に出發した、その傍らに働いてゐた坑夫八十連の海區で三貫乃至四貫を負ふた。

落盤慘死

石城郡内郷

本縣水産試驗船磐城丸は定期検査の爲め東京石川造船所にて船体の修理中完成したので小名濱村大字宮城炭礦坑夫安達郡杉に歸港し出漁準備中であつたが廿九日午後九時四十分頃同坑上層千葉縣銚子沖合に至るまでの海業中落盤の下敷となり即死し同洋調査船鯉漁場探査に出發した、その傍らに働いてゐた坑夫八十連の海區で三貫乃至四貫を負ふた。

大瀧問題

投書歡迎

愛町同志會は何處へ設けたのですか、私も愛町の一人として意見を述べたいと思ひます(場所が判らないので、時報紙上を借ります)

大瀧問題

關して

愛町同志會は何處へ設けたのですか、私も愛町の一人として意見を述べたいと思ひます(場所が判らないので、時報紙上を借ります)

